

冠動脈狭窄の簡便な予測に関する後ろ向き観察研究

1. 研究の対象

2021年12月から2022年2月までに、琉球大学法医学講座にて解剖をうけた方。

2. 研究目的・方法

心筋梗塞などの虚血性心疾患は、日本における主要な死因の1つです。また心臓の周りに分布する冠動脈の硬化、特に動脈の内側に粥状の隆起（プラーク）ができる、アテローム性動脈硬化は、虚血性心疾患の原因として最も多いとされています。この粥状硬化が進行して動脈が詰まる、またはプラークの破綻部位に血栓ができ動脈を閉塞することが、心筋梗塞などの虚血性心疾患に繋がります。一方で、動脈の詰まりが高度にならないと症状が出てこなかったり、血栓による閉塞が急激な病状の変化をもたらしたりと、予防が難しい一面もあります。

そこでこの研究では、外来での診察時に簡便に得られる、冠動脈狭窄を予測できる情報がないか、これまでの類似の報告を参考にしながら検討します。冠動脈狭窄の程度とご遺体の所見を検討し、簡易的に冠動脈狭窄の程度を予測できる、侵襲的でない（痛みなどを伴わない）評価方法を見つけることを目的としています。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

事例情報：年齢階級、性別、解剖所見（皮下脂肪織の厚さ、冠動脈狭窄の程度、心外膜下脂肪織の厚さ）、身体所見（身長、体重、アキレス腱厚、耳垂のしわ）、既往歴

4. お問い合わせ先

本研究に関するお問い合わせ、また、協力を望まれない場合は、以下の問い合わせ先にお申し出下さいますようお願いいたします。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

機 関 名：琉球大学大学院医学研究科法医学講座

住 所：沖縄県西原町字上原 207 番地

電話番号：098-895-1141 メール：ninomiya@med.u-ryukyu.ac.jp

研究責任者：二宮賢司

-----以上